

平成 29 年度 事業計画

学校法人 津曲学園

鹿 児 島 国 際 大 学

鹿 児 島 高 等 学 校

鹿児島修学館中学校・高等学校

鹿 児 島 幼 稚 園

目 次

鹿児島国際大学	1
鹿児島高等学校	8
鹿児島修学館中学校・高等学校	11
鹿児島幼稚園	14

鹿児島国際大学

【基本目標】

1. 地域を支える人材の輩出

～主体的に学びを拓き、問題解決力と突破力のある人材を育成する～

(基本的視点)

- I フィールドワークやゼミを通じた地域課題を解決できる能力の養成
- II 就業体験・各種実習等による地域社会に貢献できる人材の育成

(基本的方向)

- I 産・学・官・地域との連携のもと、地域に関するフィールドワーク等による学びを通して、地域の課題発見・解決に向けて主体的に行動できる突破力のある人材を育成する。
- II インターンシップや各種実習・課外活動などを通して、学生の就業力の育成強化に取り組み、地域社会に貢献し、地域を生涯支え続けることができる人材を育成する。

<全学的な取組>

- I ①「地域人材育成プログラム」の推進
②「地域人材育成プログラム修了証」の認知度向上の取組
③教職員・学生による課題解決型学習（PBL）等の手法を取り入れた教育活動の推進
- II ①国内インターンシップの推進
②各種実習の推進
③行政機関・自治体・産業界等との連携による就業体験先の開拓と地元就職率向上の取組

<その他学部・学科・研究科における独自の取組>

- I ①正課における実践型科目設置の検討（児童学科）
- II ①実習をはじめとする体験型学習の充実と拡充（社会福祉学科）
②新規免許の取得課程の導入検討（児童学科）
③観察・参加提携小学校の開拓（児童学科）

2. 国際的視野を持った社会人の育成

～語学力の強化により、グローバル社会で実力を発揮する人材を育成するとともに、留学生の派遣・受入を促進する～

(基本的視点)

- I グローバル社会で実力を発揮する人材の育成
- II 地域特性を生かした国際化の推進

(基本的方向)

- I 国際化ビジョンに基づき、「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」等を通じて語学力の強化を図り、学生の海外留学・海外インターンシップを促進する。また、外国人留学生の受入環境の整備のための日本語教育の充実を図るとともに、国内での進学・就職支援を行う。
- II 海外協定校との連携を深めるとともに、鹿児島の地域特性を活かしたアジアを中心とする地域との国際交流の展開を図る。また、産・学・官の連携として、地域から求められる国際交流事業等への外国人留学生の参加を促進・支援し、地域の国際化に貢献する。

<全学的な取組>

- I ①「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」の推進
- ②外国語による授業及び教育環境の充実
- ③海外インターンシップの参加促進と学生による海外インターンシップ報告会等の充実
- ④外国人留学生の就業力育成と就職支援
- II ①鹿児島との直行便がある地域での交流先の開拓及び東南アジア諸国との交流の推進
- ②中国等における交流拠点の拡大
- ③通訳ボランティアや国際交流ボランティアなど地域に関わる国際交流活動への参加
- ④交換留学生及び交換教職員の派遣・受入れの実施など協定校等との交流促進

3. 自ら未来を拓く人材の育成

～将来を創造できる学生を育成する教育体制の構築～

(基本的視点)

- I 学生の「意思形成能力」「意思伝達能力」の向上
- II 社会を牽引するリーダーの育成
- III FD（授業内容・方法の改善等）とSD（業務知識・技術の習得）の推進

(基本的方向)

- I 大学の基本理念やそれに基づく3つのポリシーを踏まえ、教学ミッションである「意思形成能力」と「意思伝達能力」の育成に向けた教育方法及び評価指標・方法を確立する。また、それらをより効果的に実施するために、学生全体の基礎学力の向上を図る。
- II 一定以上の基礎学力を有している学生について、SA・TA等への活用を進め、多くの授業にサポート役として「学び」に参画させる。また、新しい教育課程の開発や学科でのプロジェクト等の取組を通じ、社会を牽引するリーダーとなり得る人材を育成する。
- III FDとしては、学生の実情等を踏まえ授業内容・方法の改善等に取り組む。また、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を奨励し、必要な講演会の開催や教育関係学会への参加を促進する。SDとしては、全学的な実施方針・実施計画に基づき、学園本部が実施するコンプライアンス・ハラスメント研修会等に加えて、大学職員としての専門性を高めるための研修会を実施する。

<全学的な取組>

- I ①アクティブ・ラーニングを基本とした効果的な教育方法の開発
- ②学習成果を検証するための評価指標・評価方法の開発
- ③論文（卒業論文・演習論文等）発表会や研究発表会の推進
- ④国語力，ICT活用能力，外国語能力の育成強化による学生の基礎学力の向上
- II ①SA・TAの積極的活用
- ②社会福祉士試験対策講座等の学科プロジェクトの推進
- ③さんいちプロジェクト（三つの日本一，十の九州一，百の鹿児島一）の推進
- III ①〔FD〕FD講演会・研究会の開催や教育関係学会への参加促進
- ②〔FD〕授業公開・授業参観の充実
- ③〔FD〕教員提案制度の充実
- ④〔FD〕効果的に教育を行うための確実な授業の実施
- ⑤〔SD〕大学職員としての専門性を高める研修会の実施

<その他学部・学科・研究科における独自の取組>

- I ①レポート発表会の開催（経営学科）
②研究助成と発表会の開催（社会福祉学科）
③主体的なキャリアデザインの支援（児童学科）
④学会発表や学会誌等への投稿の推進（経済学研究科）
⑤大学院生主導の研究会の開催（福祉社会学研究科）
- II ①4つの特別プログラム（公務員，教員，簿記上級，FP）の取組み推進（経済学部）
②学生の学科活動への参画を通してのリーダーシップ育成（国際文化学科）
③トップランナーの育成（音楽学科）
- III ①新入生ゼミナールの授業内容・方法の改善（社会福祉学科）
②実習実施上の課題解決の取組みについての検討（児童学科）
③学科としてのFD活動の充実（音楽学科）
④FD協議会の開催と授業アンケートの実施（国際文化研究科）

4. キャンパスライフの満足度を高める多様な支援

～スチューデントファーストを実践し，学生の目標実現に向けた支援体制の一層の充実を図る～

（基本的視点）

- I 学生一人ひとりへのきめ細やかな修学支援
- II 安心してキャンパスライフを過ごせる生活支援と若者文化の醸成
- III キャリア形成支援の充実と就職意識を向上させる進路支援
- IV 安全・快適な教育研究環境づくり

（基本的方向）

- I 修学支援方針に基づき，学生面談やSAを活用した実態把握による留年率及び退学率の改善に向けて取り組むとともに，学生一人ひとりの能力に応じた基礎力アップ学習会などの補習・補充教育を行う。また，障害を持つ学生に対する合理的配慮の提供方針に基づき，ノートテイクをはじめとする具体的な対策を図る。さらに，奨学金及び学費等減免制度などの充実に努める。
- II 生活支援方針に基づき，学生の心身の健康や生活上の諸問題への相談に対応し専門的な助言を行う学生相談室等の体制の強化とともに，ハラスメントや人権侵害の防止等を目的とした研修会の充実に努める。また，ボランティア活動やサークル活動をはじめとする学生が意欲的に取り組んでいる課外活動を支援し，若者文化としての醸成を促す。
- III 進路支援方針に基づき，資格・受験対策講座などのキャリア形成支援や就職支援ガイダンスなどの就職活動支援の充実に努めるとともに，就職意識の向上及び就職後ケアに取り組む。また，地元雇用拡大への新たな取組みや本学の卒業生・同窓会及び本学卒業企業経営者の会との連携を強化する。
- IV 大学の理念・目的を実現するために時代に即した学部・研究科等の教育研究組織の見直しを図る。また，教育研究等環境の整備に関する方針に基づき，専門的な高等教育を行う機関にふさわしい施設設備の充実のほか，学生の視点に立った福利厚生施設等の充実に努めるとともに，安全・快適な教育研究環境や条件を整備する。

<全学的な取組>

- I ①出席不振や学業成績不振等の学生に対するクラス担任・演習担当教員による面談
②新入生に対する全学的なSAの活用による問題を抱えた学生の把握と対応

- ③ウォーミングアップ学習の推進
- ④基礎力アップ学習会など学生の能力に応じた補習・補充教育の強化
- ⑤合理的配慮の提供方針に基づくノートテイク研修会や有償ボランティア制度などの障がい学生への支援の充実
- ⑥奨学金及び学費等減免制度の充実
- ⑦外国人留学生の支援事業の充実
- ⑧授業時間割の作成及び時間割編成システム導入の検証と改善
- ⑨図書館所蔵の資料や学術情報データを利用した学修支援
- ⑩ I Rデータの活用とシステムの構築
- II ① U P I (心理的スクリーニング)の継続実施による学生の実態把握と学生相談情報の部局内共有システムの構築
- ②ハラスメント及び人権侵害の防止等を目的とした研修会の充実
- ③学生ボランティア支援センターの学内外への周知とボランティアへの意識向上及びボランティア活動への支援の強化
- ④学生が意欲的に取り組んでいる課外活動の支援と学生主体の学内外へのリアルタイムな情報発信
- ⑤国際交流支援室による留学生生活支援
- III ①就業力育成研修や資格・受験対策講座などの充実
- ②就職支援ガイダンスマップを活用した就職意識の向上
- ③地元企業を中心とした企業訪問の強化
- ④本学卒業生・同窓会及び本学卒業企業経営者の会との講演会やセミナー形式での交流促進
- ⑤本学主催合同企業説明会における福祉系施設・団体の参加枠を拡充
- IV ①学科定員及び免許・資格課程の見直し等による入学定員充足率の改善と教員の再配置等による教員1人あたりの学生数(S T比)等の学科間における不均衡の是正
- ② I C T機器及びソフトの継続的導入やアクティブ・ラーニング教室の充実
- ③バリアフリー施設の整備や学生の憩いの場等の福利厚生施設の充実
- ④研究を支援する環境や条件(研究費, 研究室, 研究専念時間等)の整備
- ⑤教職課程の再課程認定に向けた情報収集及び全学的な取組の支援
- ⑥図書館の施設整備による機能の充実とラーニングコモンズ等の利用拡大
- <その他学部・学科・研究科における独自の取組>
 - I ①いわゆる「気になる学生」の情報共有(社会福祉学科)
 - ②要配慮学生に対する特別支援チームの編成・対応(児童学科)
 - ③多面的な個人指導(音楽学科)
 - II ①新入生歓迎パーティ及び新入生レセプションの実施による新入生のキャンパスライフ支援(経済学科)

5. 産学官連携と社会を支える学術研究の推進

～地域とともに歩み, 社会に貢献し続ける大学を目指す～

(基本的視点)

- I 産・学・官・地域と連携した教育研究活動の展開
- II 学術研究の奨励と研究倫理の向上
- III 地域社会への地(知)の還元

(基本的方向)

- I 自治体、産業界等からの求めに応じ、フィールドワーク等の教育活動を通して地域の課題解決に全学的に取り組むとともに、高大連携・大学間連携や地域住民との連携等により、共通の地域課題の解決や活力ある地域づくりに貢献する。
- II 科学研究費などの外部資金獲得に向けての助成や支援を充実するとともに、教員の資質向上を図るための研究倫理教育の継続的な実施に取り組む。
- III 大学の「知」の集積を地域社会に還元すべく、地域に関する調査及び研究を通じて本学の研究及び教育の向上を図るとともに、地域社会の発展に貢献する。また、公開講座等を開催し、学ぶ意欲を持つ地域住民の探究心に応える取組を行う。

<全学的な取組>

- I ①自治体等からの要請に基づく地域の課題解決のための教職員・学生によるフィールドワーク等の教育活動の推進
②本学学生と地元高校生との協働による地域課題解決に向けた事業の推進
③大学間連携の取組
- II ①採択助成金や研究支援費の整備・充実
②研究倫理教育の継続実施
- III ①地域に関する共同研究プロジェクト等の調査研究
②地方公共団体、各種団体、企業等からの調査及び研究の受託
③研究成果の社会への還元・普及
④生涯学習センターによる生涯学習講座等の実施
⑤認定こども園に係る特例制度講座の実施
⑥文部科学大臣委嘱司書講習の実施
⑦障害者の就労受入れや中高生のインターンシップ(職場体験)受入れの支援

<その他学部・学科・研究科における独自の取組>

- I ①県内の福祉系専門職団体等との連携・情報交換(福祉社会学研究科)
- II ①学科主催の研究会の実施と紀要への投稿の促進(経済学科)
②外部との学習・研究イベントの企画(児童学科)
③学科共通テキストの出版(児童学科)
④「学内研究会」の充実(国際文化学科)
⑤『国際文化学部論集』の充実(国際文化学科)
⑥「研究活動の活性化」(音楽学科)
⑦学会発表や学会誌等への投稿の推進(経済学研究科)
⑧指導教員による計画的な論文指導と中間報告会等の適切な実施(福祉社会学研究科)
⑨大学院生の学会研究発表や学術論集投稿の推奨(福祉社会学研究科)
⑩清水基金に基づくプロジェクト研究と個人研究助成の実施(福祉社会学研究科)
⑪副指導教員体制の維持並びに公開研究会及び研究倫理教育の実施(国際文化研究科)
- III ①地域社会への貢献(社会福祉学科)
②鹿児島幼稚園との協力・連携強化(児童学科)
③地域対象の講習会等の実施検討(児童学科)
④音楽の地域還元(音楽学科)
⑤研究科主催の公開シンポジウムの開催(福祉社会学研究科)

6. 学生募集の全学的な取組の展開

～多様な入学者選抜の実施と幅広い広報活動の展開を図る～

(基本的視点)

- I 多様な入学者選抜による学生確保
- II 大学の特色を伝える広報活動の展開

(基本的方向)

- I 「学力の3要素」を念頭に置き、多様な学生をさらに多面的に評価できるよう、入学者選抜方法を再構築するなど、入試制度の見直しを行う。それにより県内はもとより、県外、特に隣県からの志願者増に努める。
(※「学力の3要素」(1. 知識・技能, 2. 思考力・判断力・表現力, 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度))
- II 大学での学び、さんいちプロジェクト、地域貢献などの本学の特色を活かした広報や鹿児島市中心部における屋外広告の掲出強化などを行い、地域社会におけるブランド力の向上及び学生募集に寄与する広報戦略の再構築を図る。

<全学的な取組>

- I ①高大接続改革に伴う多様な入学者選抜の実施
②教職協働による高校訪問・進学相談会の取組み強化
③県外駐在員の配置及び県外高等学校との連携強化
④アジア地域からの外国人留学生確保
- II ①スマートフォンなどの媒体の特性を生かしたタイムリーな学生生活や教育・研究活動等の情報発信
②本学の特色を伝える魅力あるオープンキャンパスの実施
③鹿児島市中心部における広報媒体の検証と屋外広告の充実

<その他学部・学科・研究科における独自の取組>

- I ①新たな視点からの学生選抜方式の検討(社会福祉学科)
②海外志願者確保のためのキーパーソンと海外拠点の設置への取組(経済学研究科)
③入学者確保に向けた関心喚起等の取組み(福祉社会学研究科)
④学部生の関心喚起並びに社会への発信及び留学生募集による入学定員の確保(国際文化研究科)
- II ①スマートフォンを活用した情報発信(経済学科)
②学科の魅力をアピールするチラシの製作とオープンキャンパス等での活用(経済学科)
③学生の学びの姿や活動状況の広報(社会福祉学科)
④学科広報(情報発信)のさらなる充実(児童学科)

7. 質保証による社会への責務の実践

～教育の質の保証と質の向上に向けた取組を充実させ、社会に向けて本学の長所・特色を発信する～

(基本的視点)

- I 自己点検・評価の確実な実施
- II 内部質保証システムの構築

(基本的方向)

- I 自己点検・評価に関する基本方針に基づき、認証評価機関の基準ごとに自己点検・評価活動を確実に実施するとともに、その結果を自己点検・評価報告書として取りまと

め、毎年度社会へ公表する。

- II 第3期認証評価に向けて、認証評価機関の基準ごとにPDCAサイクルを適切に機能させ、全学的観点による自己点検・評価を行い、内部質保証システムを構築する。その際、学外者の意見を聴取するとともに、本学独自の特色ある取組を加えることで、質の向上を図る。

<全学的な取組>

- I ①各部局・関係委員会において基本方針に基づいた自己点検・評価活動の実施
②自己点検・評価実施部会による適切性の検証
③自己点検・評価運営委員会で結果を総括し、自己点検・評価報告書を公表
- II ①点検・評価項目ごとに評価指標（目標）の設定と達成（改善）
②学外者の意見聴取
③第3期認証評価に向けた特色ある取組の推進
④教学IRの充実に図り、必要な教学データの収集・分析と関係部局への情報提供の促進

8. 運営・財政の安定化

～中長期の大学運営の方針をもとに、安定した財政基盤の確立に向けた取組を推進する～
(基本的視点)

- I 大学運営体制の整備
- II 財政の健全化

(基本的方向)

- I 急速なグローバル化、少子化等の大学を取り巻く諸課題に的確に対応し、高等教育機関として今後も確実な発展を続けていくために、中長期管理運営方針に基づき、大学運営体制を構築する。
- II 教育研究を安定して遂行するための必要かつ十分な財政的基盤を確立するために、中長期財政計画に基づき、支出削減の方策及び収入増加に向けた方策の検討を行い実行する。

<全学的な取組>

- I ①役職者規程に基づく管理運営の実施
②職員の人事考課制度及び評価を昇格等の処遇に反映させる施策の検討
③防災及び危機管理に配慮した運営の実施
④学園統一のメールシステム等の導入及び管理運営
- II ①各事業の成果の検証に基づく厳格かつ効率的な予算執行
②教職員の適正配置や事務組織の統合等による人件費削減の実施
③寄附講座や寄附研究部門などの活用による寄附金の積極的募集

以上 鹿児島国際大学

鹿児島高等学校

【基本目標】

1. 学校ブランド力の向上

～生徒・保護者からの満足度が高く、地域社会への貢献度が高い学校を目指す～

(基本的視点)

- I 生徒・保護者からの満足度向上
- II 地域社会への貢献

(基本的方向)

- I 3学科それぞれが、学科目標、進路目的に応じたバラエティ豊かな授業、個別指導など手厚いフォロー、学習環境整備などの体制を進化させ、生徒・保護者の満足を追求する。
- II ボランティア活動などを通して、学校周辺の地域住民、町内会、企業などから信頼され、存在感のある学校を目指す。

(29年度の主な取組)

- I 多様な進路に対応可能な学校設定科目の構築（普通科）
難関大学・地元国立大合格者増・奨学金制度の運用改善（英数科）
にこにこ市、インターンシップの活性化（情報ビジネス科）
学校評価の活用（教務部）
- II ボランティア活動の推進（三弧会）

2. 先進的な教育課程の編成

～語学力・コミュニケーション能力の強化によりグローバル教育の充実を図る～

(基本的視点)

- I 語学力・コミュニケーション能力の強化
- II グローバル教育の充実

(基本的方向)

- I ネイティブの教員による「英語」「中国語会話」「韓国語会話」の授業、鹿児島国際大学の留学生との国際交流などを通して、語学力・コミュニケーション能力の育成を図る。
- II オールイングリッシュによるディスカッションやプレゼンテーションを通して英語力を磨き、国際交流への派遣、海外ボランティア体験、海外団体との学校交流を実施しチャレンジ精神を培う。

(29年度の主な取組)

- I カリキュラム編成
・編成可能な学校設定科目等の検討・決定
- II 語学研修制度の構築
・エンパワーメントプログラム参加者のプログラム実施後の英語に対するモチベーション維持

3. 未来を築く進路保証

～新しい教育制度や大学入試改革、資格取得に対応できる環境を整え、生徒たちの進路を実現する～

(基本的視点)

- I 次期学習指導要領や大学入試改革への対応
- II 進路実現に活用できる各種の資格取得

(基本的方向)

- I 生徒たちに育成すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために指導方法の見直し・改善に努める。
- II 大学進学や就職の際に大きな武器となる語学検定をはじめとする各種検定，商業系の上級資格などの資格取得への対策を強化する。

(29年度の主な取組)

- I 教育改革に対応するカリキュラムの原案作り
大学入試改革へ向けての思考力・表現力作りのための学習指導
電子黒板，タブレットなどICT機器を活用したAL型授業の展開
PC，タブレットなどICT機器を活用した自学自習計画
- II 英検・商業科目特別講座などの実施
 - ・ 実用英語技能検定特別指導等の実施
 - ・ 全国商業高等学校協会1級3種目以上取得講座の実施
 - ・ 日本商工会議所検定資格取得対策講座の実施

4. 三弧会・部活動のさらなる活性化

～三弧会組織の改革とともに，全国大会で活躍できる部活動を育成する～

(基本的視点)

- I 三弧会組織の改革
- II 全国大会で活躍できる部活動の育成

(基本的方向)

- I 平成27年度に実施した保護本部との統合によりスリム化した三弧会が，自主的な活動の幅を広げられるよう，さらなる組織改革を行う。
- II 強化指定部を中心として，部活動奨学生制度および部活動，体育・文化活動推薦入試による勧誘活動により強化を図る。

(29年度の主な取組)

- I 体育祭，鹿高祭，クラスマッチなどの生徒主体の企画・運営
- II 強化指定部制度の充実
 - ・ 強化指定部制度の見直しを実施する。

5. 生徒募集の強化

～安定した入学者数を確保するために生徒募集活動を強化する～

(基本的視点)

- I 専願入学者増を目的とする募集体制の確立
- II 受験者のニーズに合わせた入試制度改革

(基本的方向)

- I 奨学金制度や通学支援により，新たなマーケットを開拓し専願入学者数を増やす。
- II 新たな選抜方法を検討し，各分野で優秀な生徒の確保，受験者数の増加を図る。

(29年度の主な取組)

- I 学校案内，学校新聞などの広報物や，学校説明会，体験入学などの充実

- II 新しい入試制度の導入
 - ・新入試制度実施を検討

6. 職員の資質向上

～研修制度を充実させ職員の資質向上を図る～

(基本的視点)

- I 年次別研修の充実
- II テーマ別研修の充実

(基本的方向)

- I 自らのキャリアステージに応じた，学習指導力，生徒指導力，学級経営力など職員に求められる資質の向上を図る
- II 教育制度改革，ICT など時代の変化に応じた新たな課題に対応する知識や能力の修得を図る。

(29年度の主な取組)

- I 初任者・経験者研修充実
 - ・計画された研修の100%実施
- II アクティブラーニング型の授業研修実施
 - ・教科を超えた授業研修の実施

7. 安定した財政基盤の確立

～中長期的な学校財政基盤を強化する～

(基本的視点)

- I 健全財政の維持，学校教育予算の拡充

(基本的方向)

- I 安定した入学者数の確保および転退学者の削減により，健全財政を維持し，学校教育予算の拡充を図る。

(29年度の主な取組)

- I 収入の安定確保

以上 鹿児島高等学校

鹿児島修学館中学校・高等学校

【基本目標】

1. 一人ひとりの目標に応じた進路実現

～生徒理解に努め、個々が満足する進路を実現させるために～

(基本的視点)

- I 教員間の共通理解に基づく組織的な学習指導
- II キャリア教育の充実

(基本的方向)

- I 中高一貫教育の長所を最大限に活かし、生徒の資質・能力を把握するとともに、学校全体で連携を図りながら生徒の進路を実現する。
- II 生徒の社会的自立に向けて必要となる能力や態度を育むキャリア教育の充実を図る。

(29年度の主な取組)

- I 個別指導の充実
国公立難関私立大学合格者の増加
- II 進路講演・学習の実施
講演会の実施

2. 教職員の指導法の改善と資質の向上

～主体的に学ぶ力を育てる授業を構築するために～

(基本的視点)

- I ICT教育，ALの研究と実践
- II 社会の変化に対応できる力の養成

(基本的方向)

- I ICT機器，またALを効果的に取り入れた授業を実践できる資質を身につける。
- II 社会に必要とされる資質，能力を適切に判断し，生徒の発達段階に応じた指導を実践する。

(29年度の主な取組)

- I 授業アンケートの活用
- II 英検等の外部検定の実施

3. 円滑な教育課程の再編と教育活動の効率化

～大学入試改革への対応のために～

(基本的視点)

- I 6か年を見通した教育課程の再編
- II 各学年の教育活動を見据えた年間計画の再編

(基本的方向)

- I 大学入試改革を見据えた6か年の教育プログラムを作成し実践していく。
- II 中高6か年の発達段階や特性に応じた教育活動がさらに効果的に展開できるよう年間行事計画を再編していく。

(29年度の主な取組)

- I 新たな6か年の教育プログラムの作成と運用
- II 文化祭・修学旅行・体験学習などの実施時期の検討および実施

4. 社会人基礎力の養成

～社会で活躍できる人材育成のために～

(基本的視点)

- I 集団活動等を通してのモラルの形成
- II ボランティア活動への積極的な参加

(基本的方向)

- I 学校行事や授業を通して、公共の場および学校生活におけるモラル等の修得を徹底させる。
- II ボランティア活動への参加を通して、他者への思いやりや誠実な人間性を育む教育を実践する。

(29年度の主な取組)

- I 充実したスペシャルウィーク（交通安全教室・携帯等安全教室など）などの実施
7つの習慣Jや道徳などで年間を通して徹底したモラル指導の実施
- II 学校周辺の清掃活動や各種支援活動(赤い羽根募金、書き損じはがき回収など)の実施

5. 生徒会のさらなる活性化

～より積極的な生徒会活動を行うために～

(基本的視点)

- I 学校行事運営への積極的な取り組み
- II 自主的な生徒会活動への取り組み

(基本的方向)

- I 生徒会による自主的な学校行事の企画・運営を通して、生徒の自主性・積極性・協調性の醸成を図る。
- II 修学館の生徒としての自覚と誇りを持ち行動する。

(29年度の主な取組)

- I 学級や生徒会などでの話し合い活動を活性化及び、実践
- II 生徒一人一人が自分の役割を自覚した上での、日常活動への積極的参加

6. より効果的な生徒募集・広報活動の推進

～修学館の魅力を浸透させるために～

(基本的視点)

- I ホスピタリティ溢れるイベントの開催
- II 地域に愛される学校を目指した広報活動

(基本的方向)

- I 全教職員が本校教育活動の特色を熟知し、来校者満足度の高いイベントを開催することにより、安定的な入学者の確保を図る。
- II 町内への広報および連携の充実により、地域の子どもたちに憧れをもたらす学校を目指す。

(29年度の主な取組)

- I 積極的な塾・学校訪問、来校者満足度の高いイベント（オープンスクール、私立中高フェア、学校説明会など）の開催
- II 町内会便り・町内会掲示板による情報発信、HPの充実

7. 健全な財政基盤の確立

～財政の健全性を維持していくために～

(基本的視点)

I 財政の健全化

(基本的方向)

I 定員の継続的な充足，経費節減を進めることにより，健全な財政の維持を図る。

(29年度の主な取組)

I 入学者の安定的な確保，中高接続の強化，支出改善と教育環境の整備

以上 鹿児島修学館中学校・高等学校

鹿児島幼稚園

【基本目標】

1. ブランド力(特色ある保育力・教育力)の維持・工夫

～大きな感動、たくましい成長を目指した、よりいっそう楽しく、質の高い保育や行事の精選・充実を図る～

(基本的視点)

- I 豊かな環境を生かした楽しい保育や行事の推進
- II 運動遊びや英語遊びなど新しい保育の推進

(基本的方向)

- I ① 「意欲」「挑戦」「賞賛」の問題解決的な保育をベースに、「ほめて伸ばす」指導をいっそう推進し、一人一人のやる気や自己肯定感を高める。
②常に、「効率化・充実」の観点から、行事等の準備、運営、評価の仕方等を見直すとともに、実践記録を残し、次年度の参考にする。
③「なかよしクラス」(異年齢集団活動)については、全職員の共通理解を確実なものにするため、年次ごとに指導計画を整備していく。
- II マット遊びなど運動遊びや英語遊びなどの新しい保育の実践を積み重ね、それらの実践を指導計画として整備していく。

(29年度の主な取組)

- I ①問題解決的な保育の実施、ほめて伸ばす教育と自己肯定感の育成
②効率化推進委員会の定期的な開催
③「なかよしクラス」(動物園ごっこ・お店やさんごっこ)の指導計画の改善
- II 「マット遊び」の実践を通じた指導計画の作成

2. 教育 実習園としての誇りと指導力をもった教職員の育成

～鹿児島国際大学と連携した研修や公開保育等により、指導力の向上を図るとともに信頼される幼稚園づくりを行う～

(基本的視点)

- I 大学と連携したテーマ研究の推進
- II 第三者評価としての公開保育の実施
- III 若手教員の育成

(基本的方向)

- I ①新幼稚園教育要領の研究・学習を実施し、新しい鹿児島幼稚園の教育課程を編成する。
②大学と連携し、「自己肯定感を高める研究」並びに「運動遊びの研究」等を推進する。
- II 2～3年に1回程度の割合で公開保育を実施し、幼稚園の改善に資する。
- III 若手職員に対して研修・相談の機会を設定し、諸問題の解決を支援する。

(29年度の主な取組)

- I ①新幼稚園教育要領等を踏まえた教育課程の編成
②大学と連携した実証的な研究の推進
- II 新規採用職員に対する研修と相談並びに指導・助言

3. 園児募集の強化

～魅力ある幼稚園，選ばれる幼稚園として，特に未就園児の保護者への子育て支援の強化を図る～

(基本的視点)

I 未就園児の保護者への子育て支援の充実

(基本的方向)

- I ①ベビークラブ(0～1歳)やちびっこクラブ(2歳以上)の内容・広報の充実を図る。
②子育てセミナーや入園相談，教育相談等による子育て支援を続ける。

(29年度の主な取組)

- I ベビークラブ・ちびっこクラブの参加保護者の意見(評価)を基にした内容の改善や広報の充実。
II 子育てセミナーへの未就園児の保護者の参加並びに入園相談・教育相談等の実施

4. 幼稚園のよさが伝わる広報等の充実

～幼稚園のよさ(特色や子どもの成長等)が伝わる広報の充実や周年事業を推進し，よりいっそうの信頼を得る～

(基本的視点)

- I 幼稚園のよさが伝わる広報の充実
II 周年事業の円滑で計画的な推進

(基本的方向)

- I 紙媒体(幼稚園だより，学級だより，園長だより等)やホームページ，またビデオ懇談会等による広報の充実を図る。
II 創立90周年，再興50周年記念事業については，目的や期日，内容やスケジュールや予算等についてはPTAと連携を図りながら進める

(29年度の主な取組)

- I ホームページ，ビデオ懇談会等による広報の充実

以上 鹿児島幼稚園